



競書大会で日々の研鑽の成果を披露
子どもたちの書で万博イヤーが幕開け

8月21日(木)
大阪・関西万博EXPOホールで
書道パフォーマンス甲子園特別大会開催

大会の結果や
入賞作品展の
スケジュール
はこちら→



1月19日、書道パフォーマンス甲子園の作品で彩られた伊予三島運動公園体育館(中之庄町)で、「日本一の紙のまち四国中央市新春競書大会」が盛大に開催され、万博イヤーの幕開けを飾りました。

書道人口の拡大と伝統文化の振興を目的に、毎年開催されているこの大会に、今年は過去最多となる389人の小中学生がエントリーしました。

出場者たちは、藤原製紙所(金生町下分)の手漉き和紙に「正月」や「感謝」、「輝ける未来」など学年ごとに決められた課題文字を力強く揮毫し、日々の研鑽の成果を競いました。

また、幕間には川之江高校書道部による書道パフォーマンスが披露され、競技中は同校の日本文化部が琴を演奏するなど、高校生たちが大会に花を添えました。

受賞作品をご覧いただける移動展を4月6日まで開催しています。詳しくはホームページでご確認ください。



書道で思いを伝えよう
鳥取城北の山根亮文先生が特別授業

2月4日、鳥取城北高校書道部顧問の山根亮文先生を招いた特別授業が関川小学校でありました。

山根先生から文字や書の成り立ちを学んだ児童たちは、「大切な人に伝えたい言葉」を虹色の紙に書き、代表児童が「関川の夢」と力強く大書した大きな紙に貼り付けて作品を作り上げました。



大手飲料メーカーの株式会社伊藤園(本庄大介代表取締役社長)と書道パフォーマンス甲子園のコラボ商品「お〜いお茶京都宇治抹茶」が1月27日から全国で販売されています。商品名の書を大会2連覇中の鳥取城北高校書道部が揮毫したほか、パッケージの裏には大会の紹介コーナーが掲載されています。

伊藤園と書道の甲子園がコラボ
新商品の名称を優勝校が揮毫





川之江柔道会 記念大会開催

1月26日、川之江柔道会（立川昭宏会長）の発足100周年を記念した柔道大会が、川之江体育館（川之江町）で開催されました。

大会は1チーム3人の団体戦で行われ、県内外から参加した88チーム、約260人の小学生たちが日頃の練習の成果を発揮し、仲間たちの声援を力に熱戦を繰り広げました。



エリエールスポーツクラブ エアロビックスの全国大会に出場

エアロビックスの四国大会で優秀な成績を収めたエリエールスポーツクラブの5人の選手が1月25日から静岡県などで開催された全国大会に出場しました。

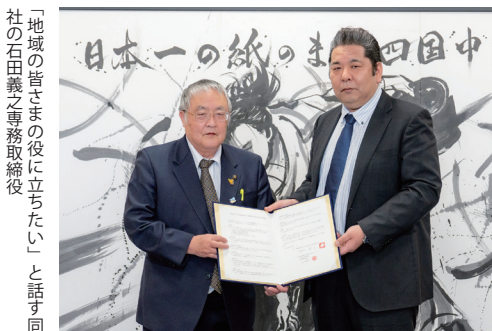
5人は、大会を前にした1月22日に篠原市長を表敬訪問し、「最後まで笑顔で、全力のパフォーマンスをします」と目標を掲げました。



「今後も日本一の紙のまちを支えたい」と話す同協会の川崎直人副地区会長

物流問題の解決を地域で目指す トラック協会が要望書を提出

1月21日、ドライバーの時間外労働の規制で輸送能力が不足する「物流の2024年問題」や燃料などの価格高騰で厳しさを増す運送業界への支援を求めるため、四国中央地区トラック協会（西岡斉会長）が市役所を訪れました。要望書を受け取った篠原市長は、支援を前向きに進める考えを示しました。



「地域の皆さまの役に立ちたい」と話す同社の石田義之専務取締役

災害時に場所と食料を提供 遊食房屋と市が災害協定を締結

1月16日、香川県を中心に飲食店を展開し、本市では妻鳥町に店舗を構える株式会社遊食房屋（宮下昌典代表取締役社長）と本市が、災害時の協力に関する協定を締結しました。これにより災害発生時には、同社の店舗や駐車場が避難所や救助の拠点として提供されるほか、食料品なども供給されます。



相談・啓発・救済で人権を守る 人権擁護委員協議会が活動報告

1月27日、講演会や人権相談などを通じて啓発活動を行い、人権問題の解消に取り組んでいる人権擁護委員協議会（鈴木孝子会長）が市役所を訪れ、篠原市長に活動報告をしました。鈴木会長は、近年の企業における人権問題に触れ、「各機関と連携しながら積極的に取り組んでいきたい」と述べました。



健康である限り活動を続けたい 市遺族会 石川サチ子さんに大臣表彰

戦没者遺族に対する生活相談など、多年にわたる援護活動の功績が認められ、市遺族会の石川サチ子さん（金生町山田井）が厚生労働大臣表彰を受賞しました。2月4日に篠原市長を表敬訪問し、受賞を報告した石川さんはこれまでの活動を振り返り、「感謝の気持ちでいっぱいです」と話しました。



地域の力で歴史を守ろう 文化財防火デーに合わせて防火訓練

1月30日、三島宮川にある県指定文化財の興願寺三重塔で防火訓練がありました。

隣接する三島幼稚園の園児が見守る中、参加した興願寺職員や近隣住民、消防職員ら約30人は、初期消火や避難誘導、消火器の取り扱い講習、そしてはしご車による放水訓練を通して防火意識を高めました。



児童らが非常食づくり 防災教室を日本赤十字社が視察

1月24日、災害への備えや応急手当の方法などを伝えるために、伊予三島赤十字奉仕団（石川祐子委員長）などが市内の小学校で実施する「手つなぎ防災ひろば」を日本赤十字社の清家篤社長らが視察しました。

この日は、松柏小学校の4年生が非常食づくりや段ボールベッド体験などをしました。



市長賞を始めとする入賞 63 作品は市内 3 か所で移動展示されます。ぜひお越しください



日本一の
書道用紙のまちで
児童・生徒書道展覧会
開催中！

入賞作品移動展

土居窓口センター 3月3日～16日
市役所市民交流棟 3月17日～30日
川之江ふれあい交流センター
3月31日～4月13日

市長の ひとりごと

春、別れの季節でもある



四国中央市長 篠原 実

今日は日曜日。午後市役所に出てきてパソコンを打っていたら、日差しが西日になって暖かくなるほど強くなってきた。北の大雪で苦労されているみなさんには申し訳ないほどである。

節分が過ぎ、もう少しで桃の花の開花の便りが聞こえそうな季節になってきた。人間、けじめをつけなければならぬ時もある。喜びも悲しみも微笑みとさみしさが入りまじり、なんとも心が満杯になり危うい時期でもある。

人が生きていく中で、期待と不安をいっぱい引きずりながら、どちらを向けばいいのやら分からないときがある。みんなそうして、青春という時期を通り過ぎていく。振り返ると、俯いてならばそぼそしゃべることは出

来ても、面と向かったらうなるようなことばかりだな。あと少し残っている米櫃に気合いを入れて頑張ろう。

野球で最後に登板して試合を締めくくる役目のピッチャーを「クローザー」と呼ぶ。重要で重い任務を背負った仕事である。格好はいいが大変である。たった一球投げたボールでその試合の勝敗が決してしまうことが多々ある。3時間あまりのナイシンの想いが凝縮されている。みんなの努力を背中に背負っているのである。人生、時にはそうした場面に出くわせることもある。

そう言いながら春が、少しずつ肌で感じるができるように近づいてきた。
私の引退もすぐそこである。